

研究成果情報 4

[成果情報名] アイガモにおけるニューカッスル病ワクチンの接種方法

[要約] アイガモのニューカッスル病を効果的に予防をするためには、ワクチンを4週齢までに4回点鼻で接種し、さらに4ヶ月齢に追加接種することが必要である。

[キーワード] アイガモ、ニューカッスル病ワクチン

[担当] 畜産試験場 養鶏科

[連絡先] 055-273-6441

[区分] 関東東海北陸農業・中小家畜

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

アイガモの水稻同時作が環境保全型農業の一環として県内の多くの市町村で実施されているが、同時に法定伝染病であるニューカッスル病のワクチン接種による予防対策の徹底が課題となっている。アイガモなどの水禽類はニューカッスル病に対する感受性が低くワクチンによる抗体価の推移も十分に調査されていない。

本試験では数種類のパターンのワクチンプログラムの中から効果的なワクチンプログラムを明らかにした。

[成果の内容・特徴]

1. 2回点鼻では5週齢ですべての個体が予防に上の抗体価を示していたが、2ヶ月齢には抗体価の低下がみられ平均値（GM）では感染防御に必要な抗体価（10倍）を維持しない（図-1、表-2）。
2. 4回点鼻および筋肉注射の場合、2ヶ月齢時には平均値（GM値）では10倍以上を示し、また、すべての個体が感染防御に80%必要な抗体価（8倍）を維持する（図-2、表-2）。
3. 4回点鼻においても、4ヶ月齢には抗体価が低くなり、平均値（GM値）は10倍以下となり、追加接種が必要となる（表-2、図-2）。

[成果の活用面・留意点]

1. アイガモ飼育で効果的なニューカッスル病のワクチン接種ができる。
2. 個体によってばらつきがあるため定期的に指導機関等に抗体価のチェックを依頼する。
3. ワクチン（B1株）の単価は500円で最低単位が1000羽分であるためワクチン実施にあたっては、個別に行うよりも地域で計画的に行うことがより効果的な防疫対策が可能となる。

[具体的データ]

表-1. ワクチンプログラム

- 1) 生後4日齢および2週齢で点鼻接種
- 2) 生後4日齢で点鼻接種・2週齢で筋肉接種
- 3) 生後4日齢および2・3・4週齢で点鼻接種

表-2. 抗体価の推移 (GM値)

	5週齢	2ヶ月齢	4ヶ月齢
2回点鼻	19	8.0	—
筋肉接種	21.8	16.0	—
4回点鼻	21.9	15.0	9.7

図-1. 2回点鼻の抗体価分布

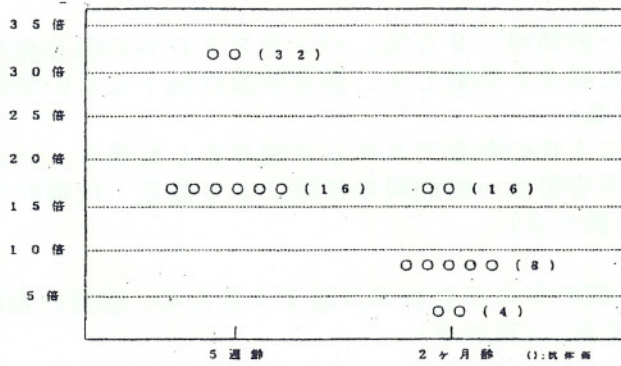
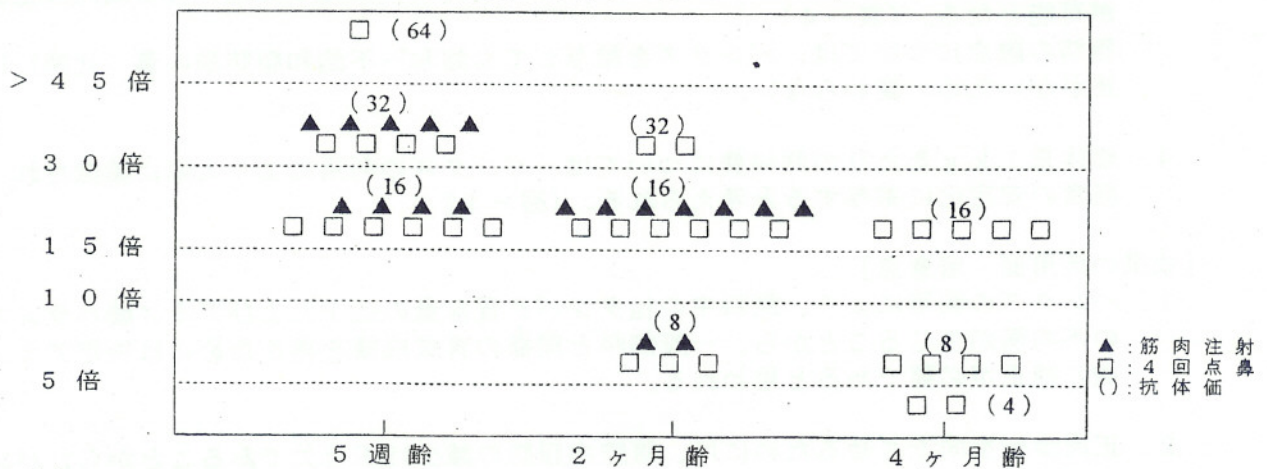


図-2. 筋肉接種および4回点鼻の抗体価の分布



[その他]

研究課題名：水禽の衛生プログラムの検討

予算区分：県単

研究期間：2001年度～2003年度

研究担当者：井室 由紀、松下 浩一、小林 政雄

発表論文等：なし